

北海道地域材利用推進方針

北海道地域材利用推進方針（以下「推進方針」という。）は、公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律（平成22年法律第36号。以下「法」という。）第8条第1項の規定に基づき、国の公共建築物における木材の利用の促進に関する基本方針（平成22年10月4日農林水産省、国土交通省告示第3号。以下「基本方針」という。）に即して策定するものであり、北海道内の森林から産出され、道内で加工された木材（以下「地域材」という。）の公共建築物における利用の促進を図るため、公共建築物における地域材の利用の促進の意義及び基本的方向、公共建築物における地域材の利用の促進のための施策に関する基本的事項、道が整備する公共建築物における地域材の利用の基準、公共建築物の整備の用に供する地域材の適切な供給の確保に関する基本的事項並びに公共建築物以外での地域材の利用の促進に関する基本的事項等を定めるものである。

第1 公共建築物における地域材の利用の促進の意義及び基本的方向

1 公共建築物における地域材の利用の促進の意義

国の基本方針における公共建築物での木材利用の意義やその効果を踏まえたうえで、道や市町村等が整備する公共建築物での地域材の利用を促進することは、森林資源の循環利用による林業の再生を図るうえで極めて重要である。

我が国の森林面積のおよそ4分の1を占める北海道の森林は、エゾマツやミズナラに代表される天然林やカラマツなどの人工林が豊かに広がり、生命の源となる清らかな水をたくわえ、野生生物の生息の場となるとともに二酸化炭素を吸収し酸素を供給するなどの重要な役割を果たしており、道民にとってかけがえのない貴重な財産となっている。

しかし、これまで木材などの林産物の供給などを通じて森林を支えてきた北海道の林業及び木材産業等は、輸入木材の増加などの厳しい情勢から事業活動が停滞し、加えて、一部の地域では、急激な伐採の増加に造林が追いつかず伐採跡地が増加するなど、森林の多面的機能の持続的な発揮や木材の安定的供給に支障を来すことが懸念されている。

このような現状において、地域材の需要を拡大することは、森林から生産される木材等の収益が森林の整備や保全に再び向けられ、森林資源の循環利用につながることから、森林・林業の再生や山村地域の活性化、雇用の創出を図るうえでも重要である。

また、木材は、断熱性、調湿性等に優れ、衝撃を緩和する効果が高い等の性質を有するほか、再利用が可能で省資源につながる資材であることから、地域材を人と環境にやさしい資材として有効に利用することは、健康的で温もりのある快適な生活空間の形成や二酸化炭素の排出の抑制、建築物等での炭素の固定を通じた地球温暖化の防止にも貢献するものであり、このような地域材の良さを実感する機会を道民に幅広く提供し、「木育」の取組なども通じて、地域材の利用の意義等について道民理解を効果的に醸成することが重要である。

このため、多くの道民の利用に供される公共建築物において、環境にやさしい地域材を積極的に利用し、直接的に地域材の需要を拡大するとともに、地域材の利用の意義や良さを広く普及することによって、住宅や民間事業所などの一般建築物や農業施設、工作物の資材、各種製品の原材料及びエネルギー源など、多様な分野での地域材の利用を拡大することが必要である。

2 公共建築物における地域材の利用の促進の基本的方向

公共建築物の整備においては、過去、森林資源の枯渇への懸念や不燃化の徹底等から木材の利用が抑制された時期があり、現在に至っても木材の利用は低位にとどまっている。

このため、1の公共建築物における地域材の利用の促進の意義を踏まえ、非木造を指向してきた過去の考え方を抜本的に転換し、公共建築物については可能な限り木造化又は内装等の木質化（注）を図るとの考え方の下で、以下の基本的方向に沿って公共建築物における地域材の利用の促進を図るものとする。

(1) 道の役割

道は、自ら率先してその整備する公共建築物における地域材の利用に努めるとともに、推進方針に基づく公共建築物における地域材の利用の促進に向けた措置の実施状況を明ら

かにし、公共建築物及び公共建築物以外の建築物等における地域材の利用のより効果的な促進に努めるものとする。

また、市町村と連携しながら地域材の利用に取り組みやすい体制整備に努めるものとする。

(2) 市町村の役割

市町村は、市町村の区域内の公共建築物における地域材の利用の促進に向け、地域の実状を踏まえた効果的な施策の推進に積極的な役割を果たすことが求められるため、法第9条に規定する市町村の区域内の公共建築物における木材の利用の促進に関する方針（以下「市町村方針」という。）を作成することが期待される。

また、市町村は、その整備する公共建築物における地域材の利用の促進に取り組むほか、市町村方針を作成した場合には、その公表に努めるとともに、当該方針に基づく公共建築物における地域材の利用の促進に向けた措置の実施状況を積極的に明らかにするよう努めるものとする。

(3) 関係者の適切な役割分担と関係者相互の連携

道又は市町村以外の者であって公共建築物を整備する者、林業従事者、木材製造業者その他の関係者は、本推進方針及び市町村方針を踏まえ、道又は市町村が実施する施策に協力して、適切な役割分担の下、相互に連携を図りながら、公共建築物における地域材の利用の促進及び公共建築物の整備の用に供する地域材の適切な供給の確保に努めるものとする。

(4) 地域材の供給及び利用と森林の適正な整備の両立

公共建築物における地域材の利用の促進に当たっては、地域材の供給及び利用と森林の適正な整備の両立を図ることが重要であることから、林業従事者、木材製造業者その他の関係者は、道又は市町村が講ずる関連施策に協力しつつ、森林計画等に従った伐採及び伐採後の再造林等の適切な森林施業の確保並びに間伐材及び合法性等の証明された地域材（「北海道グリーン購入基本方針（平成13年8月6日施行）」に基づき毎年度定める「環境物品等調達方針」（以下「環境物品等調達方針」という。）の特定調達品目に該当するものについては、その判断の基準を満たす物品等）等の円滑な供給の確保を図るものとする。

また、公共建築物を整備する者は、その整備する公共建築物において地域材を利用するに当たっては、「環境物品等調達方針」に示された判断基準を満たすものを選択するとともに、道民の安全と安心を確保する観点から森林認証をはじめ合法性や産地が証明された地域材で、品質を判断する根拠となる乾燥の度合いや強度が明示されているJAS製品の使用に努めるものとする。

(5) 道民の理解の醸成

道及び市町村は、公共建築物における地域材の利用の促進の意義等について道民に分かりやすく示すよう努めるものとする。

(注) この推進方針において「木造化」とは、建築物の新築、増築又は改築に当たり、構造耐力上主要な部分である壁、柱、梁、けた、小屋組み等の全部又は一部に木材を利用することをいい、「内装等の木質化」とは、建築物の新築、増築、改築又は模様替に当たり、天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用することをいう。

第2 公共建築物における地域材の利用の促進のための施策に関する基本的事項

1 地域材の利用を促進すべき公共建築物

法に基づき地域材の利用を促進すべき公共建築物は、法第2条第1項各号及び法施行令(平成22年政令第203号)第1条各号に掲げる建築物であり、具体的には、以下のような建築物が含まれる。

(1) 道又は市町村が整備する公共の用又は公用に供する建築物

これらの建築物には、広く道民一般の利用に供される学校、社会福祉施設（老人ホーム、保育所等）、病院・診療所、運動施設（体育館、水泳場等）、社会教育施設（図書館、公民館等）、公営住宅等の建築物のほか、道又は市町村の事務・事業又は職員の住居の用に供される庁舎、公務員宿舎等が含まれる。

(2) 道又は市町村以外の者が整備する(1)に準ずる建築物

これらの建築物には、道又は市町村以外の者が整備する建築物であって、当該建築物を活用して実施される事業が、広く道民に利用され、道民の文化・福祉の向上に資するなど公共性が高いと認められる学校、社会福祉施設（老人ホーム、保育所、福祉ホーム等）、病院・診療所、運動施設（体育館、水泳場等）、社会教育施設（図書館、青年の家等）、公共交通機関の旅客施設及び高速道路の休憩所（併設される商業施設を除く）の建築物が含まれる。

2 公共建築物における地域材の利用の促進のための施策の具体的方向

公共建築物における地域材の利用に当たっては、建築材料としての地域材の利用はもとより、建築材料以外の各種製品の原材料及びエネルギー源としての利用も併せ、以下により促進するものとする。

(1) 建築材料としての地域材の利用の促進

公共建築物における地域材の利用に当たっては、特に第2の4の積極的に木造化を促進する公共建築物の範囲に該当するものについて木造化を促進するとともに、木造化が困難と判断されるものを含め、内装等の木質化を促進する。

また、第2の1の(1)及び(2)に記載する以外の建築物であって、国庫補助事業等により整備される建築物は、国や地方公共団体の政策を進めるための建築物であることから、これらについても地域材の利用に努めるものとする。

(2) 建築材料以外の木製品等の利用の促進

公共建築物において使用される机、椅子、書棚等の備品及び紙類、文具類等の消耗品については、地域材をその原材料として使用したもの（以下「地域材製品」という。）の利用に努めるものとする。

(3) 森林バイオマスの利用の促進

木質ペレットや木質系断熱材など森林バイオマスの製品及びエネルギーの利用を促進するとともに、森林バイオマスを燃料とする暖房器具やボイラーの導入について、森林バイオマスの安定的な供給の確保や公共建築物の適切な維持管理の必要性を考慮しつつ、その促進を図るものとする。

(4) 地域材利用に係る環境等への貢献度についての普及

道及び市町村は、カーボン・フットプリント（CFP）やライフサイクル・アセスメント（LCA）等を活用し、公共建築物での地域材の利用が森林の適正な整備や地球温暖化の防止に及ぼす効果や利用者の心理面、情緒面及び健康面に及ぼす効果の普及に努めるものとする。

3 道及び市町村の取組

公共建築物での地域材の利用に当たり、道及び市町村は連携して以下により推進するものとする。

(1) 道の取組

道は、公共建築物での地域材の利用を促進するため、国が実施する施策の効果的な活用と併せ公共建築物を整備する者への支援、設計者や木材加工技術者などの人材育成、耐火部材や木造建築工法等に関する技術開発、公共建築物に利用する地域材の供給体制の整備、木造公共建築物の事例の収集・提供など総合的な施策の推進に努めるものとする。

(2) 市町村の取組

市町村は、自ら整備する公共建築物での地域材の利用に努めるとともに、地域の実状に即した独自の施策の充実を図り、国及び道が実施する施策と併せ効果的な施策の推進に努めるものとする。

4 積極的に木造化を促進する公共建築物の範囲

公共建築物の整備においては、法令等で耐火建築物とすること又は主要構造部を耐火構造とすることが求められていない低層の公共建築物において、積極的に木造化を促進するものとする。

また、木造と非木造の混構造とすることが、純木造とする場合に比較して耐火性能や構造強度の確保、建築設計の自由度等の観点から有利な場合もあることから、その採用も積極的に検討するとともに、法令等に基づき耐火建築物とすること又は主要構造部を耐火構造とすることが求められる公共建築物であっても、木材の耐火性等に関する技術開発の推進や木造

化に係るコスト面の課題の解決状況等を踏まえ、木造化が可能と判断されるものについては木造化を図るよう努めるものとする。

ただし、災害応急対策活動に必要な施設など、当該建築物に求められる機能等の観点から木造化になじまない又は木造化を図ることが困難であると判断されるものについては木造化を促進する対象としないものとする。

第3 道が整備する公共建築物における地域材の利用の基準

道立施設の木造化・木質化等を進めるに当たっては以下によるものとする。

(1) 木造化の推進

道は、その整備する公共建築物のうち、第2の4の積極的に木造化を促進する公共建築物の範囲に該当する低層の公共建築物については、原則として全て木造化を図るものとし、その場合の基準は別表1によるが、次に掲げる場合は除く。

① 防火地域及び準防火地域であって、木造化が困難な場合

② 防災・保安上の理由等から木造化が困難な場合

また、別表1に掲げる建築物以外の施設であっても、積極的に木造化を検討するものとする。

なお、建築基準法等における規制等が見直された場合は、この基準における基準値等についても見直すものとする。

(2) 木質化の推進

道は、その整備する公共建築物について、中高層・低層にかかわらず、内装等の木質化が適切と判断される部分の木質化を図るものとし、その場合の基準は別表2によるが、関係法令等で制限がある場合はこの限りでない。

なお、内装等の木質化に当たっては、地域材を原材料とする製品の使用に努めるものとするが、原材料の確保が難しいなど、地域材を原材料とする製品の入手が困難な場合はこの限りでない。

(3) 木質家具等の導入の推進

道が整備する公共建築物において使用する家具等については、積極的に地域材製品の導入を推進するものとし、その場合の基準は別表3による。

(4) 木製机・椅子の導入

道が整備する公共建築物において使用する家具のうち、木製机・椅子を導入する場合の基準は別表4による。

(5) グリーン購入の推進

道が整備する公共建築物において利用する地域材製品については、「環境物品等調達方針」に示された判断基準を満たすものとする。

(6) 森林バイオマスの利用の推進

道が整備する公共建築物において、暖房器具やボイラーを設置する場合は、森林バイオマスを燃料とするものの導入を推進するものとする。

第4 公共建築物の整備の用に供する地域材の適切な供給の確保に関する基本的事項

1 地域材の安定的な供給の確保

公共建築物に利用する地域材の円滑な供給を確保するため、森林所有者や素材生産業者、木材製造業者その他の地域材の供給に携わる者が連携して、林内路網の整備、林業機械の導入、施業の集約化等による林業の生産性の向上、地域材の需給に関する情報の共有及び地域材の安定的な供給・調達に関する合意形成の促進、公共建築物の整備における地域材の利用の動向やニーズに応じた地域材の適切な供給のための地域材の製造の高度化及び流通の合理化、合法性等が証明された地域材の供給体制の整備等に取り組むものとする。

また、道及び市町村は、これら地域材の供給に携わる関係者の取組を促進するとともに、法第10条に規定する木材製造の高度化に関する計画の認定制度の推進を図るものとする。

2 公共建築物の整備の用に供する地域材の生産に関する技術の開発等

木材製造業者等は、強度や耐火性に優れる等の品質・性能の高い木質部材の生産及び供給や地域材を利用した建築工法等に関する研究及び技術の開発に積極的に取り組むものとする。

また、道は、地方独立行政法人北海道立総合研究機構等の試験研究機関と連携し、地域材の利用の促進に関する研究及び技術の開発・普及の促進を図るとともに、地域材の加工技術者等の人材育成に必要な施策を推進するものとする。

第5 公共建築物以外の建築物等での地域材の利用の促進

道及び市町村は、公共建築物での地域材の率先的な利用により、その取組状況や効果等について積極的に情報発信を行い、公共建築物以外での建築物や工作物等での地域材の利用を促進するものとする。

1 住宅や民間事業所等における地域材の利用の促進

住宅や民間事業所等に地域材を利用することは、木造の居住環境面での優位性に加え、環境・経済両面に貢献するものであることから、道及び市町村は、建築関係者や木材製造業者と連携し、地域材による住宅建築への支援、住宅等を建築する担い手の育成、住宅部材の開発等の施策の推進に努め、住宅等における地域材の利用を促進するものとする。

2 公共土木工事や公共施設の工作物等における地域材の利用の推進

道及び市町村は、公共土木工事における土木用資材及び公共施設の工作物等の地域材の利用を推進するとともに、周辺の環境との調和などを考慮する必要がある場所では木製ガードレールや公園の木柵など地域材製品の利用に努めるものとする。

また、試験研究機関等と連携して、新たな工法や製品の開発を促進するとともに、建設業者への技術支援、情報の提供等により、土木工事や工作物等での地域材の利用を推進するものとする。

なお、道が発注する公共土木工事については、「公共土木工事における間伐材利用推進指針（平成20年7月7日制定）」に基づき実施するものとする。

3 農業用施設での地域材の利用の促進

農業は、本道の基幹産業であり、民間事業者や個人が整備する施設等も多いことから、道及び市町村は、畜舎やエゾシカ侵入防止柵などの農業用施設において、低コスト化や地域材利用の優位性の発信などにより、関係者の理解の醸成を図り、地域材の利用を促進するものとする。

4 森林バイオマスの利用の促進

道及び市町村は、公共建築物における森林バイオマスの利用を推進するとともに、道民への利用の意義の普及啓発や加工・利用施設の整備への支援、新たな利用技術等の研究開発、利用に係る情報提供等の施策の推進に努め、木質ペレットなど森林バイオマスの製品及びエネルギー利用の拡大を促進するものとする。

また、林内に残された幹や枝などの林地未利用材の利用を拡大するため、効率的な集荷システムの構築による安定供給体制の整備に向けた取組を促進するものとする。

第6 その他必要事項

1 公共建築物等の整備においてコスト面で考慮すべき事項

公共建築物等の整備において地域材を利用するに当たっては、設計上の工夫や効率的な調達等によって、建設コスト及び維持管理コストの低減に努めるものとする。

また、公共建築物等の整備に当たっては、地域材の利用に関する利用者のニーズや付加価値等を十分考慮したうえで、建設コスト及び維持管理コストを総合的に判断し、地域材の利用に努めるものとする。

2 公共建築物等における地域材の利用の推進体制

(1) 地域材の利用の推進体制

道及び市町村の公共建築物等における地域材の利用の促進を効果的に図っていくため、道の関係部局等で組織する「木材利用推進委員会」（平成8年7月9日設置）を推進機関として、公共建築物等における地域材の利用の取組を推進するものとする。

(2) 地域材の利用状況に関する調査等

道は、道内の公共建築物等における地域材の利用状況を把握するため、毎年度、調査を実施するとともに、優良な木造建築事例の普及啓発や設計・施工者による情報交換を行うなど、公共建築物等における地域材の利用の効果的な推進に努めるものとする。

(別表1)

道が整備する公共建築物の木造化推進基準

建築物の用途	建築物の規模（1棟当たりの延べ面積）				木材の使用条件
	1,000㎡以下	1,000㎡超 ～2,000㎡以下	2,000㎡超 ～3,000㎡以下	3,000㎡超	
学校	2階建て以下のものは、木造とする。	2階建て以下のものは、必要な防火措置を行い木造とする。 ※①	2階建て以下のものは、必要な防火措置を行い木造（準耐火建築物）とする。 ※①②	地域材の耐火性等に関する技術開発の推進や木造化に係るコスト面の課題の解決状況等を踏まえ、木造化が可能と判断されるものについては、木造化を図るよう努める。	<p>次の全ての条件を満たすこと。</p> <p>①合法性又は持続可能性が証明された木材</p> <p>②地域材（北海道内の森林から産出され、道内で加工されたことが証明された木材）</p> <p>③JAS製品</p> <p>ただし、道内に加工施設がなく地域材を原材料とする製品の入手が困難な場合や特殊な用途に用いる製品を必要とする場合等はこの限りでない。</p>
保健福祉施設 （保健所、児童福祉施設等）	法令の範囲内で可能なものは、木造とする。				
医療施設 （病院、診療所等）	入院施設あり	2階建て以下のものは、木造（2階部分が300㎡以上のものは準耐火建築物）とする。 ※②	2階建て以下のものは、必要な防火措置を行い木造（2階部分が300㎡以上のものは準耐火建築物）とする。 ※①②		
	入院施設なし	2階建て以下のものは、木造とする。	2階建て以下のものは、必要な防火措置を行い木造とする。 ※①		
運動施設 （体育館等）	平屋建てのものは、木造とする。	平屋建てのものは、必要な防火措置を行い木造とする。※①	平屋建てのものは、必要な防火措置を行い木造（準耐火建築物）とする。※①②		
社会教育施設 （美術館等）	2階建て以下のものは、木造とする。	2階建て以下のものは必要な防火措置を行い木造とする。 ※①	2階建て以下のものは、必要な防火措置を行い木造（準耐火建築物）とする。 ※①②		
集会場	2階建て以下で客席が200㎡未満のものは、木造とする。	2階建て以下で客席が200㎡未満のものは、必要な防火措置を行い木造とする。 ※①			
道営住宅 職員住宅	2階建て以下のものは、木造（2階部分が300㎡以上のものは準耐火建築物）とする。 ※②	2階建て以下のものは、必要な防火措置を行い木造（2階部分が300㎡以上のものは準耐火建築物）とする。 ※①②			
庁舎、研修所 交番・駐在所	2階建て以下のものは、木造とする。	2階建て以下のものは、必要な防火措置を行い木造とする。 ※①			
宿泊施設 （研修宿泊所等）	2階建て以下のものは、木造（2階部分が300㎡以上のものは準耐火建築物）とする。 ※②	2階建て以下のものは、必要な防火措置を行い木造（2階部分が300㎡以上のものは準耐火建築物）とする。 ※①②			
倉庫	2階建て以下のものは、木造（1,500㎡以上のものは準耐火建築物）とする。 ※①②				

- (1) 第3の(1)(再掲) 上記以外の施設でも積極的に木造化を検討する。
- (2) 第3の(1)の①(再掲) 防火地域及び準防火地域であって、木造化が困難な場合は除く。
- (3) 第3の(1)の②(再掲) 防災・保安上の理由等から木造化が困難な場合は除く。
- (4) 第6の1(再掲) 本表の適用に当たっては、地域材の利用に関する利用者のニーズや付加価値等を十分考慮したうえで、建設コスト及び維持管理コストを総合的に判断し、地域材の利用に努めるものとする。

※① 延べ面積が1,000㎡を超える大規模木造建築物等は、外壁及び軒裏の延焼のおそれのある部分を防火構造とし、屋根は不燃化等の措置を要する。

※② 準耐火建築物は、主要構造部を準耐火構造又はそれと同等の性能を有するものとし、外壁の開口部で延焼のおそれのある部分に防火設備の設置を要する。

(別表2)

道が整備する公共建築物の木質化推進基準

建築物の用途	内装等の木質化を行う主たる箇所	
学校	居室（教室、職員室、進路相談室、音楽室、図書室等）、玄関、廊下の壁面及び床	
保健福祉施設 （保健所、 児童福祉施設等）	居室（リハビリ室、図書室、研修室、面談室、娯楽室、入所者室、食堂等）、ロビー、廊下の壁面及び床	
医療施設 （病院、診 療所等）	入院施設あり	居室（病室、待合室、面会室、食堂等）、ロビー、廊下の壁面及び床
	入院施設なし	
運動施設 （体育館等）	床、壁面、各付帯設備（更衣室、トイレ等）の壁面	
社会教育施設 （美術館等）	居室（各種展示室、資料室、図書室、研修室、会議室等）、廊下、ロビーの壁面及び床	
集会場	居室（講堂、会議室、研修室等）、廊下、ロビーの壁面及び床	
道営住宅 職員住宅	主たる居室、玄関、廊下の壁面及び床	
庁舎 研修所 交番・駐在所	居室（事務室、幹部室、応接室、会議室、講堂、食堂等）、廊下、ロビーの壁面及び床	
宿泊施設（研修宿泊所等）	居室（宿泊室、食堂等）、ロビー、廊下の壁面及び床	
倉庫	主たる部位	

(注) 第3の(2)(再掲)

関係法令等で制限がある場合はこの限りでない。

なお、内装等の木質化に当たっては、地域材を原材料とする製品の使用に努めるものとするが、原材料の確保が難しいなど、地域材を原材料とする製品の入手が困難な場合はこの限りでない。

(別表3)

道が整備する公共建築物における木質家具等導入の推進基準

木質家具導入を推進する施設	主な対象施設	導入を推進する主な木質家具	導入の基準
学校	小学校、中学校、中等学校、高等学校、特殊教育諸学校、高等技術専門学院等	机 事務用、教室用、OA用、会議室用、応接用等	<p>各施設の新・増改築及び各種家具更新時に、次の全ての仕様を満たす木製品を導入する。</p> <p>①地域材の使用が明記された製品であること。 ②接着剤・塗料・木質部分以外の材料等は、環境に十分配慮したものが使用されていること。 ③その他、グリーン購入法特定調達物品の判断基準に適合していること。</p> <p>なお、導入を推進する木質家具のうち「机・椅子」については、「別表4」のとおりとする。</p>
保健福祉施設	保健所、児童福祉施設、障害者支援施設等		
医療施設	病院、診療所等	椅子 事務用、教室用、会議室用、応接用等	
運動施設	体育館、水泳場等	収納家具 書庫、書棚、ロッカー、キャビネット、棚等	
社会教育施設	図書館、美術館、博物館、記念館等		
集会場	興行場、集会場等	その他 ローパーテーション、案内板、掲示板、傘立て、コートハンガー等	
道営住宅・職員住宅	道営住宅、職員住宅等		
庁舎・研修所・交番・駐在所	庁舎、警察署、交番、駐在所、研修所、試験場等		
宿泊施設	研修所等		
その他	倉庫等		

(別表4)

道が整備する公共建築物における木製机・椅子の導入基準

対象施設				仕様
各部等が所管する下記施設を対象とし、新・増改築、破損等による交換などの机・椅子更新時に木製机・椅子を導入する。				道立施設に導入する机・椅子について、共通の仕様を設定する。
所管部等	教室用	事務室用	その他 (会議室、応接室、待合室、OA室等)	<p><共通仕様> 机天板や椅子背・座面等に地域材が使用された製品を、今後、道立施設に導入を推進する机・椅子の共通の仕様とする。 また、製品の選定に当たっては、以下①～⑤の全ての条件が満たされているものとする。 <選定条件></p> <p>①机天板等の木質部分の見た目や肌触りなどから、木の良さが感じられるものであること。 ②部材に集成材・合板・積層板が用いられている場合は、ホルムアルデヒド放散量の水準が「日本農林規格(JAS)」で定められている『F☆☆☆☆』のものであること。 それ以外の部材についても、健康や環境に十分に配慮したものが使用されていること。 ③木質部分が衣類等に引っかからないように表面加工されていること。 ④サイズは導入施設に合わせること。 ⑤グリーン購入法特定調達物品の判断基準に適合していること。</p>
知事部局各部	各部所管の教育施設等	全ての道立施設を対象とする	全ての道立施設を対象とする	
教育庁	道立高等学校、特別支援学校など			
道警本部	—			
その他	—			
推進方策				
導入を進めるための具体的な方法として、各施設の導入箇所に応じた導入方法を次のとおりとする。				
導入箇所	導入方法		摘要	
教室	<p>◆新築時においては、積極的に木製机・椅子の導入を検討する。</p> <p>◆机・椅子を老朽化等により更新する場合は破損等により交換する場合は、積極的に木製品の導入を検討する。</p>		<p>①天板は、「リバーシブル」又は「交換が可能」であること。 ②持ち運びが容易な工夫又は軽量化(机・椅子ごとで概ね15kg以内)された製品であること。 ③部品交換やメンテナンスが容易に行えること。 ④サイズは「日本工業規格『学校用家具—教室用机・椅子』(JISS1021)」を参考にする。</p>	
事務室	<p>◆管理職、受付など、来庁者の目に付きやすい箇所は、積極的に木製机・椅子を導入する。</p> <p>◆その他の机・椅子については、必要に応じて木製品の導入を検討する。</p>		<p>①諸条件により、スチール製の机を導入する場合は、天板にかぶせる「木製補助天板」を用いること。脇机も同様とする。 ②椅子については、価格・耐久性等の面を考慮し、必要に応じて木製品とする。 ③机の付属品として、机上名札や課名表示板なども積極的に木製品とすること。</p>	
その他 (会議室、応接室、待合室、OA室等)	◆会議室・応接室等は、不特定多数の方が利用する機会が多い場所であることから可能な限り各部位に木材が使用された製品を導入すること。		※机・椅子以外の備品等も、積極的に木製品を取り入れ、PR効果を高める。	